

中学校第2学年 国語科学習指導案

日時 平成16年11月5日(金)5校時
生徒 北上北中学校 2年A組
男子13名 女子9名 計22名
指導者 教諭 菊池 良弥

1 単元名 心のきずなをとらえる (光村図書)
教材名 字のないはがき

2 単元について

(1) 生徒観

文学作品の授業では、登場人物の心情をつかむ学習を苦手としている生徒が多い。その背景には、考えることを面倒くさがったり、文脈や語句に沿って想像せず、感覚的に自分が感じたことだけで表現したりすることが挙げられる。

学習活動の中では、自分の意見を他と交流することは大体できるので、他との交流から自分にはないよさに気づき考えを深める姿勢を育てたい。また、文学作品の学習の中で、人物の気持ちを考えることは苦手としているので、これを機会に他者の心情を洞察する力を付けていきたい。この作品を学習したことにより、読書意欲が喚起され、漫画ではなく活字を読む意欲がでてくるとよいと考える。

(2) 教材観

この「字のないはがき」は、筆者である向田邦子さんとその父親に関するエピソードが描かれている随筆である。前半での暴君ぶりと手紙上での姿とのギャップ、後半での末の妹にかかわるエピソードの二つを通して、父親の姿がユーモア且つ家族愛に溢れる姿として描かれる。長く教科書に登場している作品なので、さまざまな教材研究と実践がなされている作品でもある。自分としては、父親の姿や家族愛のとらえを安易な言葉で表現することなく、人物の心情を深く掘り下げていくようにしたいと思う。よって、向田邦子さんの他の随筆も有効に活用できればと思う。

(3) 指導観

「読むこと」の授業改善が重要視されているので、音読なども含めた「読み方」を色々工夫したい。個人の課題設定や自分の考えを他者と交流するなどの活動を通して、人物をより深く理解することを目指したい。簡単な言葉ではなく、より練られた言葉で心情を考えてみるというような指導をしたい。あくまでも「読むこと」を中心として考え、他領域は副次的に使いたい。

本単元の二つの教材のうち、「ゼブラ」では、人物相互の関係と心情を読みとるため、どのような視点で読めばよいのか、どのように考えを展開していけばよいのかを指導したい。それをふまえた上で、「字のないはがき」では、より主体的に読みを展開し、深く考え、作品について様々な意見交流ができるようにしていきたい。つまり、自分の言葉で「作品を語る」力を付けさせたいと考える。

《根拠となる考え方》

なぜ読むのか

作品を通して、人間の絆について読みとるため。すなわち、叙述を通して内容をつかみ、自分の考えを持つ学習のため。

どのような視点で読むのか

父親の心情が表れている部分はどこか。父親の性格が分かる部分はどこか。父親がどういう人物であるか分かるところはどこか。筆者は父親に対してどのような思いを抱いているか。

どのような方法で読むのか

全体通読 音読 描写読み 裏読み 比較読み 教科書の言葉を自分の言葉で言い換えながら読む。

読んだ後に何が残ればよいのか

作品を自分の考えを持って読めたという達成感と人間の絆についての自分の考え。読書意欲と学習意欲。

3 単元の目標

登場人物たちの会話や行動に着目しながら、人と人との関わりや変容、心情を考え、心のきずなをとらえる。

クラスの仲間と感想交流をする目的で、「ゼブラ」「字のないはがき」を読んで考えたことなどを手紙に書く。

感想交流会を開き、お互いの感想を交流しあう。話し手は、聞き手に的確に伝えるような工夫をする。聞き手は、話し手の感想からさらに自分の感想を深める。

4 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・心のつながりや人と人とのきずなを考えながら文章を読み、手紙の交換や感想交流会を通して、ものの見方や考え方を深めようとしている。

【読むこと】

- ・文章の特徴や表現の仕方に注意して読み、人間、社会、平和などについて考えを深めている。

【書くこと】

- ・手紙文の特徴を考え、伝えたい相手を意識して事柄や気持ちを明確にして書いている。

【話すこと・聞くこと】

- ・感想交流会に参加する中で、話の中心や付加的な部分、語句の選択などに注意しながら話したり聞いたりしている。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・語句の意味を理解して作品を読み味わうと共に、場にふさわしい言葉遣いを理解している。

5 指導計画と評価規準

次	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語についての知識・理解・技能
1	1	「ゼブラ」全文を通読し、登場人物の関係を確かむ。	全文を通読しながら、分からない言葉のチェックや人物の関係把握など、学習の準備に必要な活動をしようとしている。			正確に音読している。 登場人物の関係をつかんでいる。 一読目で感じた自分の感想を持ち、文章化している。	作品中にでてきている言葉の意味を理解し、ノートやワークに書いている。
	2 3	登場人物の関係と変化をつかみ、きずなをとらえる。	人物の関係や気持ちの変化について考えをめぐらせ、自分なりの考えを持つようとしている。			人物の関係の変化、人との関わりから生まれた主人公の変化をつかんでいる。 自分の考え、意見を持ち、文章化したり発表したりしている。	
	4	「字のないはがき」全文を通読しながら登場人物を把握し、時代背景を探る。	時代を表す言葉をつかみ、時代背景を調べている。			登場人物を把握すると共に、時代を表す言葉を見つけ、それがどのように人物とかわるのかを理解し、ノートにまとめている。	時代を表す言葉とその意味するところを理解し、ノートやワークに書いている。

5 本時 ・ 6	作品の叙述に注目して、登場人物の心情を捉える。	父親像や心情が分かるところを探しながら、父親の姿を読みとろうとしている。 作者の心情を読みとり、家族のきずなについて自分の考えを持つようとしている。			叙述から父親の姿や心情を捉え、つかんだ父親像をノートにまとめている。 父親や家族のきずなに対して自分の考えを持ち、ノートにまとめたり発表したりしている。	表現の特徴に注意するため、キーワードとなる言葉の意味を理解し、ノートやワークにまとめている。
2 7	感想を手紙に書いて、交流する。	言葉を選びながら、自分の考えをわかりやすく書くようとしている。		作品を読んだ感想を、人間のきずなについての考えを含めて書いている。		効果的な表現のため、言葉を吟味している。 お互いの手紙を添削している。
3 8	感想交流会を開く	自分の感想をわかりやすく伝えるために工夫したり、相手の感想を聞いて考えを深めたりしようとしている。	聞き手に対して、自分の感想と作品についての考えをわかりやすく伝えている。 相手の感想や考えを、何を伝えたいのかに注意して聞き、自分の考えを深め、ノートにまとめている。			効果的に話し、相手に伝えるために、言葉を工夫して話している。

6 本時の指導

(1) 目標

作品から、叙述に即して父親像（性格や心情）と父に対する作者の気持ちを読みとることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
読むこと	父親の性格や心情、筆者の思いを叙述に即して適切に読み取り、自分の考えを交えてノートにまとめている。	父親の性格や心情、筆者の思いを叙述に即して考え、自分の考えを交えてノートにまとめている。	手がかりとなる表現（行動や台詞）に着目させ、そこから分かることを考えさせる。

(3) 展開

	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価
導入	1 学習課題の確認	・思考 発言	「この随筆の中で、重要な人物として描かれている人は誰だろう？」(それはなぜか。どういう意味があるのか) ・主体的な読みのために、生徒が考えた学習課題を紹介する。「小説などの登場人物の気持ちをつかむためには、どのようなことに気をつけるか？」(読みの手がかりを確認)
	手紙のエピソードから、父親の人物像と作者の気持ちをとらえよう		
10分	2 今日の学習の流れを把握させる。 ・思考の手順 ・ノート書き方	・教師の説明を聞き、何が手がかりとして課題に迫るのかをつかむ。	
展開	3 全文通読をさせ、手がかりに気付かせる	・学習範囲を各自音読する ・指名による音読。 ・父親の人物像や心情が分かる叙述に印を付けながら聞く。	
	4 印を付けた部分から分かる父親の性格や心情をノートにまとめさせる。	・自分が印を付けた部分に対して分かったことや考えたことをノートに書く。	・全体での父親像の押さえ 《記入例 一部分》 ・筆まめな人(など)きちんとしていて、細かいことにうるさい。娘のことが心配で返事をほしがっている。 ・「ばかやろう！」の罵声やげんこつ いばりたい。自分が一番だと思っている。
	5 意見交流させる	・各自が書いた父親像述に即して考え、発表する。	《発問例》 ・その部分からどういう性格(気持ち)が分かりますか(主発問)。 ・なぜそのような行動をとったのですか(理由 根拠)。 ・そればどの部分から分かりますか(理由 根拠)。 ・この考えについて他の人の意見はどうですか(交流 討議)。 ・先生はこう思うのですが、皆さんはどうですか(再考)。
25分	6 作者の心情をつかませる。	・作者の、父に対する気持ちが読みとれる叙述を探し、発表する。	《発表例》 ・ひどくびっくりした 普段とは違う姿だったので ・こそばゆいような晴れがましいような気分 うれしかった。 ・なつかしい 今では楽しい思い出

終 結 15分	7 課題に対する答えを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 父親の人物像と作者の気持ちをノートにまとめ、それに対する自分の考えを書く。 班内でノートを交換し、友達のノートにコメントを書く。 	<p>(評価) 父親の人物像と作者の心情を叙述に即して考え、自分の言葉でノートにまとめている。</p> <p>《まとめ例・評価B》</p> <ul style="list-style-type: none"> 向田邦子さんの父は、普段は暴君であつたが、実は手紙に見える愛あつた娘をとてた。時邦子さんは驚きながら父もうれしく感じている。
	8 課題に対する答えを発表する。	<p>《コメントの観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人の記述で良いと思つたこと(評価) 自分が気付かなかつたこと(発見) 自分も同じように考えたこと(共感) 	
	9 観点を提示して感想を書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 指名、挙手により発表する。 今日の学習についての感想を書く。 	<p>(学習に対する自己評価)</p> <p>《感想の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章に書かれている部分から、人物の気持ちを讀みとつた本時の授業ができたか。

(4) 板書計画

<p>生徒の発表により記入(又は、生徒が記入) 色チヨークや図・線などを工夫する。</p>	<p>叙述の部分</p>	<p>作者</p>	<p>生徒の発表により埋めていく。 ・手紙に見える姿 ・日常の姿 ・性格 ・心情 を整理しながら書く(または書かせる)</p>	<p>叙述の部分</p>	<p>父親</p>	<p>字のないはがき 向田邦子</p> <p>手紙のエピソードから、父親の人物像と作者の気持ちをとらえよう</p>
	<p>読みとつたこと (心情)</p>			<p>読みとつたこと (性格・心情)</p>		

生徒の思考が全体に見える板書を心がけたい。できるだけ多くの考えが黒板に表れると良い。板書されたものを見ながら、個の思考を深めさせる。

(5) ノート指導の構想

授業の感想	<p>まとめ</p> <p>ひどくびっくりしたので 普段とあまりに違う</p>	<p>作者</p>	<p>筆まめ 三日にあげず手紙をよこす 一点一画もおろそかにしない きちんとしている。 面倒くさがりでない。 心配だからしよつちゅう書いている</p>	<p>父親</p> <p>自分の考え</p>	<p>十一月五日(金) 字のないはがき 向田邦子</p> <p>手紙のエピソードから、父親の人物像と作者の気持ちをとらえよう</p>
		<p>班の人からコメント</p>			<p>友達の考えや板書を見ての補足を書く</p>

板書と同様に、個の思考が表現されるノートを目指す。自分で、補足をメモできるようにさせたい。丁寧に書くことも大切だと思うが、メモ書きでたくさん書くようなものであっても良いと思う。